

JIS

計数值検査のための逐次抜取方式

JIS Z 9009 : 1999

(ISO 8422 : 1991)

(2005 確認)

平成11年5月20日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS Z 9009 : 1962は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、国際規格に整合させるために、ISO 8422 : 1991を基礎として用いた。

JIS Z 9009には、次に示す附属書がある。

附属書A(規定) JIS Z 9015-1の抜取方式に対応する逐次抜取方式

附属書B(規定) 逐次抜取方式のパラメータの求め方

附属書C(規定) OC曲線及び平均サンプルサイズの求め方

附属書D(参考) 参考文献

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 37.3.1 改正：平成 11.5.20

官報公示：平成 11.5.20

原案作成協力者：財団法人 日本規格協会

審議部会：日本工業標準調査会 基本部会（部会長 今井 秀孝）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部管理システム規格課（☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1. 総論	1
1.1 適用範囲	1
1.2 引用規格	2
1.3 定義及び記号	2
1.4 計数逐次抜取方式の原理	3
2. 抜取方式の選択	4
2.1 逐次、1回、2回及び多回抜取方式の選択	4
2.2 小ロットの検査に対する特別留保	4
2.3 抜取方式の選定	5
2.4 実施以前の準備	5
3. 逐次抜取方式の実施	9
3.1 抜取方式の指定	9
3.2 サンプルの抜取り	9
3.3 累計カウント	9
3.4 合否の判定	9
3.5 OC曲線及び平均サンプルサイズ	11
3.6 近似の有効性	11
附属書A(規定) JIS Z 9015-1の抜取方式に対応する逐次抜取方式	16
附属書B(規定) 逐次抜取方式のパラメータの求め方	38
附属書C(規定) OC曲線及び平均サンプルサイズの求め方	40
附属書D(参考) 参考文献	45
解説	46

白
紙

計数値検査のための逐次抜取方式 Z 9009 : 1999

Sequential sampling plans for
inspection by attributes (ISO 8422 : 1991)

序文 この規格は、1991年に第1版として発行されたISO 8422, Sequential sampling plans for inspection by attributes と1993年に発行されたTechnical Corrigendum 1に従って修正したものを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 総論

1.1 適用範囲

1.1.1 この規格は、離散的アイテム(個数を数えられるもの)の計数値検査のための逐次抜取方式及び抜取検査手順について規定する。

この規格の本文中の抜取方式は、生産者危険点及び消費者危険点を指標としている。

附属書Aは、JIS Z 9015-1中の抜取検査システムを補足するためのものであり、AQL(合格品質水準)を指標とした逐次抜取方式及び抜取検査手順について規定する。

この規格の目的は、検査結果の逐次審査のための手順を与えることであって、この手順を使用すれば、悪い品質のロットの不合格という経済的、心理的圧力を通じて、高い合格の確率が得られるような良い品質のロットの供給という方向へ供給者を誘導することができる。同時に消費者は、悪い品質のロットに対しては、合格の確率の上限値を規定することによって保護される。

1.1.2 この規格に設定されている抜取方式は、これらに限定されるものではないが、次のような様々な分野の検査に適用できる。

- 最終アイテム
- 部分品及び原材料
- 作業(オペレーション)
- 工程中の資材
- 保管中の補給品
- 保全操作
- データ又は記録
- 管理手続

この規格は、個数を数えられるアイテムの計数値抜取検査のための抜取方式を含んでいる。この抜取方式は、不適合の程度が不適合品率(又は不適合品パーセント)又はアイテム当たり(又は100アイテム当たり)の不適合数で表される場合に使用できる。

この抜取方式は、不適合がランダムに、また、統計的には独立に発生するという仮定に基づいている。あるアイテム中の一つの不適合の原因が他の不適合をも起こし得るといった疑いをもつ十分な理由があることもある。このような場合には、アイテムを単に適合品と不適合品に分けて考え、複数の不適合数は無視したほうがよいかもかもしれない。

附属書Aに示す抜取方式は、本来同一の生産工程からの連続的シリーズのロットに適用することを意図としている。